

人間科学部 心理学科
複数の「新しい能力」への対応

心理学科 卒業の認定に関する方針	学士力(学士課程答申)											社会人基礎力										日本学術会議 大学教育の分野別質保証のための 教育課程編成上の参照基準 心理学分野 4(2)心理学分野の学びを通して獲得すべき 基本的な能力(①心理学に固有の能力)									
	知識・理解		汎用的能力					態度・志向性					統合的な学 習経験と創 造的思考力	前に踏み出す力		考え抜く力			チームで働く力					人間を総体として客観的に理解する能力	心の多様性と普遍性を理解する能力	人間と環境との相互作用を理解する能力	人間に関する専門職業人として社会貢献する能力				
	(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	能力	主体性	働きかけ力	実行力	課題発見力	計画力	創造力	発信力	傾聴力	柔軟性	状況把握力	規律性	ストレスコントロール力						
(主文) 多くの人が様々な心理的な問題を抱えて社会に適応しにくくなっていたり、自分の持っている心理的な能力を十分に発揮できなくなっていたりする現代、人間の感覚や知覚、記憶、学習、思考、性格、認知、発達など、いわゆる「心」といわれる人間の様々な働きを科学的に理解し、さらに理解したことを駆使して、人間が社会のなかで、より、自己を実現できるようになることに寄与することのできる人材を養成します。	多文化・異文化に関する知識の理解	人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	コミュニケーション・スキル (日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。)	数量的スキルの社会的現象について、シンボルを活用して分析し、自然や社会的現象について、シンボルを活用して分析	情報リテラシー (情報通信技術(ICT)を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。)	論理的思考力を複眼的、論理的に分析し、表現できる。)	問題解決力 (問題を見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。)	自己管理能力 (自らを律して行動できる。)	チームワーク、リーダーシップを示し、目標の実現のために動員できる。また、他者に方向性を示す。	倫理観 (自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。)	市民としての社会的責任 (社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。)	生涯学習力 (卒業後も自律・自立して学習できる。)	これまで獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力																		
1.人間にアプローチするための科学的な心理学的方法を理解することができる。(知識・理解)	●	●	●	●	●																					●					
2.科学的な心理学的方法を駆使して、人間の諸行動や諸現象に関する基本的な心理的過程やメカニズムを理解することができる。(知識・理解、技能)							●	●																				●			
3.人間の不適応行動、問題行動および病理等の心理的過程やメカニズム、および諸能力を発揮する方略を理解することができる。(思考・判断)										●	●			●	●	●	●	●	●	●	●							●	●		
4.前記各項の学修事項を駆使して、総合的に人間のよりよい社会的適応および諸能力の発揮に実践的に寄与することができる。(態度)								●	●			●	●		●		●	●				●	●	●	●					●	

人間科学部 教育学科 中等教育コース
複数の「新しい能力」への対応

教育学科(中等教育コース) 卒業の認定に関する方針	学士力(学士課程答申)											社会人基礎力								日本学術会議 大学教育の分野別質保証のための 教育課程編成上の参照基準 教育学分野 4(2)基本的な能力(学士課程で目 指すべき能力)	中央教育審議会答申 「これからの学校教育を担う教 員の資質能力の向上について」 (平成27年12月21日)	茨城県公立の小学校等の校長及び 教員の資質の向上に関する指標 採用時の姿																										
	知識・理解		汎用的能力					態度・志向性					統合的な 学習経験と 創造的思 考力		前に踏み出す力		考え抜く力		チームで働く力				批判的に考察することができる				多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、組織的・協働的に課題の解決に取り組む力																					
	(1) 多文化・異文化に関する知識の理解	(2) 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	(1) 話し、理解し、表現することができる。(外国語を用いて、読み、書き、聞き、)	(2) コミュニケーションのスキル。	(3) 量的分析技術(ICT)を用いて、多様な情報を活用して分析	(4) 論理的思考力を複眼的、論理的に分析し、表現でき	(5) 問題解決力、その問題を確実に解決できる。	(1) 自己管理力(自らを律して行動できる。)	(2) 性(他者と協調・協働して行動することができる。また、他者に方向	(3) 倫理観(自己の良心と社会の規範やルールに従って行動でき	(4) 市民としての社会的責任(社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつづ、社会の発展のために積極的に関与でき	(5) 生涯学習力(卒業後も自律・自立して学習できる。)	主体性	働きかけ力	実行力	課題発見力	計画力	創造力	発信力	傾聴力	柔軟性	状況把握力	規律性	ストレスコントロール力	教育事象について批判的に考察することができる	教育事象について批判的に考察することができる	教育事象を考察したり、教育的営みに関与したりする際に、効果的に協働することができる	教育事象を考察したり、教育的営みに関与したりする際に、効果的にコミュニケーションを行うことができる	特定の教育的営みに関与し、その部分あるいは全体を構想・具体化する	生涯にわたって教育について学び続けるための基礎を身に付けている	自律的に学ぶ姿勢を持ち、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を生産にわたって高めていくことのできる力	情報を適切に収集し、選択し、活用する力	知識を有機的に結びつけ構造化する力	多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、組織的・協働的に課題の解決に取り組む力	① 教職を担うに当たり必要となる素養	② 授業力	③ 児童生徒を理解し、指導する力	④ 特別な配慮を必要とする児童生徒を理解し、支援する力	⑤ 学年・学級を経営する力	⑥ 学校運営に関する力								
1.教育活動に必要な社会人としての素養、および教育者としての素養を併せて習得している。(知識・理解、態度)	●	●					●																●	●											●													
2.生徒の心身の発達、いじめの実際、教育相談、生徒指導、キャリア教育について理解し、公平かつ受容的・共感的な態度をもち、生徒を理解し指導する力を身につけている。(知識・理解、態度)	●								●				●												●																●							
3.特別な配慮を必要とする生徒を理解し支援する力を身につけている。(技能)			●											●										●																				●				
4.学習指導要領の内容、授業を成立させるための要件、社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識と共に、授業における学習課題、主体的・対話的で深い学び、ICTの活用等を理解し、道徳教育の基本も踏まえた実践的指導力を伴う授業力を身につけている。(知識・理解、技能)		●	●	●	●	●								●	●	●								●																					●			
5.学級経営を理解し、学年や学級を経営する力を身につけている。(思考・判断)								●						●											●																		●					
6.学校等の組織で協働や運営に主体的に関わり、安全管理を理解し、関係者の安心・安全を常に意識し対応する力を習得している。(思考・判断)									●	●				●	●	●									●																				●			

現代社会学科 卒業の認定に関する方針	学士力(学士課程答申)											社会人基礎力										日本学術会議 大学教育の分野別質保証のための 教育課程編成上の参照基準 社会学分野 4(2)社会学の学びを通じて獲得 すべき基本的な能力(分野に固有 の能力)				日本学術会議 大学教育の分野別質保証のための 教育課程編成上の参照基準 社会福祉学分野 4(2)当該分野の学びを通じて獲得す べき基本的な能力(社会福祉学に固有 の能力)											
	知識・理解		汎用的能力					態度・志向性				統合的な 学習経験 と創造的 思考力	社会人基礎力										日本学術会議 大学教育の分野別質保証のための 教育課程編成上の参照基準 社会学分野 4(2)社会学の学びを通じて獲得 すべき基本的な能力(分野に固有 の能力)				日本学術会議 大学教育の分野別質保証のための 教育課程編成上の参照基準 社会福祉学分野 4(2)当該分野の学びを通じて獲得す べき基本的な能力(社会福祉学に固有 の能力)										
	(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(4)		(5)	前に踏み出す力	考え抜く力			チームで働く力				問題を見出す能力	多様性を理解する能力	実証的調査を行う能力	理論的に思考する能力	社会を構想し提言する能力	個人の尊厳を重視し支援する能力	生活問題を発見し、普遍化する能力	社会資源を調整・開発する能力	社会福祉の運営に貢献する能力	権利を擁護する能力	個人の力を高め社会を開発する能力					
(主文) 現代社会を構成する様々な人間と社会を幅広く理解した上で社会現象を総合的に認識することができ、人間科学と社会科学の視点を活かしながら、倫理観に基づく健全な批判精神を発揮して同時代の問題に主体的に取り組み福祉社会を創造することができる人材を養成します。	多文化・異文化に関する知識の理解	人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	コミュニケーション・スキル (日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。)	数量的スキル (自然や社会的現象について、シンボルを活用して分析し、理解し、表現することができる。)	情報リテラシー (情報技術(ICT)を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。)	論理的思考力 (情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。)	問題解決力 (問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。)	自己管理能力 (自らを律して行動できる。)	チームワーク、リーダーシップ (他者と協調・協働して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。)	倫理観 (自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。)	市民としての社会的責任 (社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。)	自己管理能力 (自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。)	主体性	働きかけ力	実行力	課題発見力	計画力	創造力	発信力	傾聴力	柔軟性	状況把握力	規律性	ストレスコントロール力	問題を見出す能力	多様性を理解する能力	実証的調査を行う能力	理論的に思考する能力	社会を構想し提言する能力	個人の尊厳を重視し支援する能力	生活問題を発見し、普遍化する能力	社会資源を調整・開発する能力	社会福祉の運営に貢献する能力	権利を擁護する能力	個人の力を高め社会を開発する能力		
1.様々な社会についての歴史的・文化的な理解ができ、異文化や「他者」への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につけている。また、関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについての認識を深めることができる。(知識・理解)	●	●																							●												
2.現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる。(思考・判断)				●	●	●	●									●									●	●	●										
3.現代社会の諸問題への関心を深め、それらに取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけている。(態度)								●	●	●	●			●		●	●								●	●											
4.現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考えることができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)			●									●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●							●	

人間科学部 健康栄養学科
複数の「新しい能力」への対応

健康栄養学科 卒業の認定に関する方針	学士力(学士課程答申)											社会人基礎力										日本学術会議 大学教育の分野別質保証のための 教育課程編成上の参照基準 家政学分野 4(2)家政学分野の学びを通して獲得すべき基本的な能力(家政学に固有の能力)				管理栄養士・栄養士として求められる 基本的な資質・能力 (平成30年度管理栄養士専門分野別人材育成事業「教育養成領域での人材育成」報告書)																	
	知識・理解		汎用的能力					態度・志向性					統合的な 学習経験と 創造的思考力	社会人基礎力																													
	(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)		前に踏み出す力 主体性	働きかけ力	実行力	課題発見力	計画力	創造力	発信力	傾聴力	柔軟性	状況把握力	規律性	ストレスコントロール力	人の生き方・暮らし方を選択する能力	社会の変化に対応して生活を組み立てる能力	次世代や他者の生活を支援する能力	生活に関する専門職業人として社会貢献する能力	プロフェッショナルリズム	栄養学の知識と課題対応能力	個人の多様性の理解と栄養管理の実践	社会の構造の理解と調整能力	栄養・食の選択と決定を支援するコミュニケーション能力	栄養・食の質と安全の管理	連携と協働	科学的態度の形成と科学的探究	生涯にわたって自律的に学ぶ能力					
(主文) 21世紀の栄養ケア・マネジメントは、対象者個人の栄養状態、健康状態の把握はもちろんのこと、生活習慣全般を認識した対応と、他のスタッフとの連携(多職種協働)を取りながら一連のマネジメントを手がけ多角的な物事の判断によって、人間そのものを把握し受け止めることのできる能力が求められる。本学科では、対象者一人ひとりの問題発見からその解決を導くために、十分な基礎能力と幅広い知的バックグラウンドを有し、さらに高度な専門知識と対人コミュニケーション能力と共に生活習慣病対策の任務を担う者として、病気発生そのもののメカニズムを知る基礎力をつけ、生活習慣と病気の関係を十分に理解できる人材を養成します。	●	●																																									
1.栄養ケア・マネジメントの基本が“人間栄養”であることを理解している。(知識・理解)	●	●																																									
2.生命維持に関して、食物および栄養の意義を理解している。(知識・理解、思考・判断)			●	●	●								●		●														●	●	●												
3.生活習慣病予防の担い手として、コミュニケーション能力等を活かし、適正な栄養ケア・マネジメントができる。(思考・判断、技能、態度)			●						●	●			●							●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●												
4.豊かな教養と専門知識をもち、多職種協働の中で力を発揮できる。(思考・判断、技能、態度)							●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					●	●	●								●	●	●	●	●	●	●